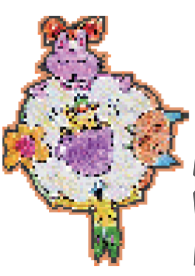




みんなの伝言板

ご感想は e-mail : kouhou @ rond. jp までどうぞ
☆編集メンバー 遠藤・佐藤・谷・七瀬・前田・和田



SSKS 療育ねっとわーく川崎

2016年11月20日発行
No.193 (2800部)
NPO法人
療育ねっとわーく川崎
発行者 江川 文誠
編集者 谷 みどり



こんなとき どうするの?

Q 療育的ケアがありますが、元気に特別支援校に通っています。学校では、担任の先生が3号研修を受けて、専門学校からの注入とたんの吸引をしています。高等部卒業後の施設でも、同じように医療ケアの人を受けてもらいたいのですが、

①3号研修とは？
介護職員等による喀たん吸引等の資格には2種類あります。不特定多数の者を対象の1・2号研修と、特定の個人に対して、決められた範囲の医療的ケアのうち、特定の行為について許可される3号研修があります。3号研修は、特定の一人を対象に研修を行いますので、日常的に医療ケアが必要な方との関係性があ

ることを前提に、研修時間や実地研修の回数は少なくなっています。特別支援学校の教員や、統合保育の保育園の先生、在宅ALS患者等在宅ヘルパー、障害のある方とかかわる介護職員の方の多くは、3号研修の資格取得者です。
②学校の先生以外の人は、どこで研修を受けるのですか？
県に申請し許可された登録研修機関が、療育的ケアを実施できるよう養成研修を行っています。障がい者の関係の事業所等では、フュージョ

ンコムかながわのような登録研修機関が、開催した研修会を受講し、資格を取る方も多いためです。フュージョンコムだけでも、200名近い方が今年も資格取得をされています。また、介護福祉士の養成課程のカリキュラムの中に「療育的ケア」が組み込まれ、これからは、介護福祉士の資格のある方は、実地研修を終えれば、1・2号の資格取得者として、誰にでも決められた範囲の医療的ケアを実施することができるようになります。介護福祉士の資格取得の、福祉高校系のルートでは、高校3年間で「療育的ケア」の学習に取り組みます。川崎では、市立川崎高校の福祉科も取り組んでいるそうです。
③研修が普及すれば、卒業後の施設でも介護職の療育的ケアは可能ですか？
研修の普及は高まりつつありますし、卒業後の施設では、特別支援学校で取り組めた療育的ケアの内容は、実施できると思います。障害のある方が、家族以外の、多くの方と、多くの時間を過ごすことが

自立につながると思っています。人は、家庭や地域で育まれた力を基礎に、家族以外の人も一緒に、地域で過ごし、自立していきます。現に通所施設や入所施設で、様々な工夫を行い、医療的ケアのある方を受け入れ生活している例も多いためです。うまく回っているところは、医療職との連携が円滑なところです。医療的ケアのある方を中心に、どうしたら安全に安心してケアを受けられるか、ケアをしてあげられるか、いろいろな職種が真摯に向き合い、話あう姿勢があれば、医療的ケアは広がりを見せると思います。
卒業後の施設で、医療的ケアが進んでいないとしたら、その理由を理解し、対策を立てる必要があると思います。関わる方の思いだけでは続かないようです。行政的なバックアップにも大いに期待したいと思えます。フュージョンコムでも、来年は川崎市の方が受講しやすいように、川崎市内でも研修を開催できないか検討しているところです。(フュージョンコム理事長の成田さんにお聞きしました)

今月号の目次

- 1 療育的ケアの支援について.....1
- 2 療育的ケアの支援について.....2
- 3 サポートセンター Rond でのみんなの伝言板.....3
- 4 明日香のたまご.....4
- 5 療育的ケア.....4
- 6 クレッシェンド.....5
- 7 明日香のたまご.....6
- 8 みんなの伝言板.....8

(本誌3・4・5・6面は会員のみで郵送)

相模原殺傷事件と 医療的ケアを考える

自分らしく生きる営みを、「わたし」でない他人が、「不幸にする存在」だからと、いのちの線引きをした。「わたし」の名前は、マスコミでも活字にならなかった。まさに存在すら社会から消された。この事件から5か月、風化させるわけにはいかない。医療的ケアが必要だから、重度な障害があるから、他の人に依存して生活するから「自分らしく生きる」とは、いけないことなのか、しあわせを求める権利がある日々の暮らしには、何が足りないのか、必要なか、おおいに語り合しましょう。

シンポジウム 1

事件が起こる前に「すでに」起こっていたこと

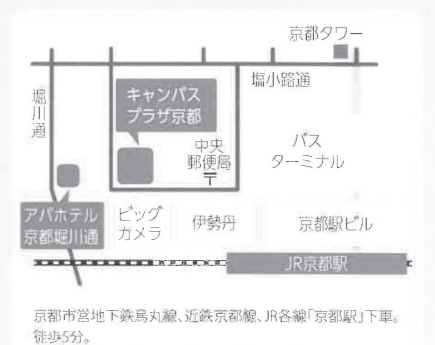
2016.12.18 sun
13:30 ~ 17:00 (開場 13:00)

会場/キャンパスプラザ 4階 第4講義室
参加費/会員 1000円・非会員 1500円
(シンポ申込み時に入会されると会員扱いになります)
締切り/2016年12月10日(木)
※定員になり次第、締切ります。

PROGRAM

第1部 講演●「弱さを共有する」
児玉真美さん(フリーライター)
「いま何が起きているか」を事実によって描きつつ、功利主義と優生思想の包囲網が、日本にも迫っているという認識の共有と、そこに相模原事件を位置づけることで、弱い部分を共有し、つながること・そこからつくる価値が大事なことを、重症児者とその関係者の側から問題提起。

討論●コーディネーター/田村和宏
(NPO法人医療的ケアネット理事・立命館大学准教授)



第2部 「第3号研修普及連絡会議」
アンケート調査以降の組織と現在の3号の課題の確認・いまどうなっているのか、どうすべきなのか? 第1部で示された課題を実践していくための3号研修: パーソナル・アシスタントの視点から議論します。

交流会
・アパホテル京都堀川通 1階
Gin yuba KYOTO 18:00 ~ 20:00
・参加費 5000円(要予約)

主催/NPO法人 医療的ケアネット
〒601-8382 京都市南区若狭石原上川原町21
TEL.075-693-6604 FAX.075-693-6605

お申込は裏面をご覧ください

発行所 郵便番号一五七〇〇七三 世田谷区砧六二二六一二一
特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会 定価一〇〇円

会員・賛助会員募集

(連絡先) 〒214-0014 川崎市多摩区登戸2981 サポートセンター Rond
Tel.044-930-0160 Fax 044-930-0128 e-mail: tani@rond.jp http://rond2981.jimdo.com/
(会費振込先) 郵便振込 00280-2-26842 特定非営利活動法人療育ねっとわーく川崎
■会費・賛助会費の別をお書きください。振込用紙が必要な方はお知らせ下さい。年会費 2500円 賛助会費一口 2000円

Kさんのケアプラン

利用者及びその家族の生活に対する意向(希望する生活)	<p>〈ご本人の様子から〉・お父さんやお母さんが大好きで、一緒にいると安心できる。・学校の先生やお友達と勉強や活動ができることが楽しくてうれしい。・体調が悪くなるとつらいので、元気でいたい。・音楽を聴くのが好き。</p> <p>〈ご家族〉・できるだけ家族と一緒に生活したい。・いろいろな人との関わりや経験を増やし、将来に向けて誰とでもやっていけるようになってほしい。・母が運転して通院やリハビリに行くとき、身体が緊張して苦しい姿勢になっても直すことができず、母が運転に集中できなくて危険なため、遠い時などは誰かに付き添ってもらいたい。・体調が変化しやすいが、いろいろな人にいろいろな形で関わってもらい、健康を維持し在宅生活を充実安定させたい。・近くに親族がいないので、父母の急病など緊急時にスムーズに対応できるようにしたい。・夏休みなど長期休暇中は楽しみや刺激が少なくなり、母は介護負担が大きくなるので、いろいろなサービスを利用したい。</p>
総合的な援助の方針	医療・教育・福祉関係者が連携して、家族状況の変化や、本人の成長・健康状態に合わせて在宅生活を安定させる。
長期目標	体調の変化に合わせて療養環境を整える
短期目標	自宅の近くにできた日中短期入所、放課後等デイサービスを利用できるようにする。

優先順位	解決すべき課題 本人家族のニーズ	支援目標	達成時期	福祉サービス		課題解決のための 本人家族の役割	評価時期
				種類・内容・量	事業者名		
1	いろいろな人との関わりや経験を増やし、将来に向けて、誰とでもやって行けるようになりたい。	学校行事に参加したり、自宅の近くにできた日中短期夕所、放課後等デイサービスを利用できるようにする。		・特別支援学校・短期入所・日中短期入所・療養型放課後等デイサービス		・事業所の見学・契約・申し込みなどを行う。	割愛
2	健康を維持し在宅生活を充実・安定させたい。	体調（呼吸、緊張、けいれん、嘔下などの状態）に合わせて療養環境を整える。		小児科受診／訪問看護／通所リハビリ／訪問リハビリ／訪問マッサージ／通院介助／特別支援学校		体調管理や車いす等の調整について、学校での様子も確認し、医師、看護師、PT等に相談しながら対応する	
3	母の入浴介助の負担を軽減し、安全に入浴したい。	リフト等を使い、安全に入浴する。		訪問看護		訪問看護師と一緒に入浴前後のケアを行う。	
4	母が運転して通院やリハビリに行くとき、身体が緊張して苦しい状態になっても直すことができない。	通院・リハビリなどのとき安心して長距離の移動ができるようにする		通院等介助		通院介助が必要な時事業所に連絡する	

まことの放課後等デイサービスを利用される K さんのサービス利用計画
相談支援専門員西巻奈美さん作成

療養通所介護 まこと

川崎区の川崎大師のすぐ近くの事業所で、児童発達支援と放課後等デイサービス、生活介護の指定を受け、多機能型の事業所として今年の8月に開所しました。将来的には介護保険の療養通所介護の併設も考えています。年齢や制度を超えて、医療的なケアが必要で、他のデイサービスなどに通うことが困難な方を対象に考えています。訪問看護で様々な方に係る中で、医療的なケアがあったり、障害が重度であったりする方々の通所施設がないことや、自宅での入浴も年齢とともに困難になることを目の当たりにする中で、当施設の開設を検討してきました。現在、児童発達支援3名、放課後等デイサービス4名、生活介護3名の方々が利用中で、そのうちで、呼吸器を使用している方が4名、気管切開7名、経管栄養の方が9名

です。月・水・金で営業をしております、12月中旬ごろより火曜日と木曜日も開ける予定です。常時、管理者以外に看護師が2名または3名の体制を取っております。保育士が1名、訪問と兼務で、PT1名、OT1名、マッサージ師1名がおり、介護福祉士1名とヘルパーが1名おります。介護福祉士やヘルパーもたんの吸引等の研修にいたり今後、演習に入る予定です。希望される方には、全員、入浴も行っております。まだまだ手探りの状態ですが、よりよいケアが提供できるように頑張っております。

《まことの連絡先》

住所 川崎市川崎区大師駅前二丁目2番9号 電話 280-6676

文部科学省の調査によると、医療的ケアの必要な児童は、現在 25,175 名。2 年前から 6000 名も増加しているそうです。そんな中、川崎の各地で、医療的ケアのある人たちへの支援が立ち上がってきました。ご紹介します。

医療ケアの必要な障害の重い人たちに愛のあるケアを！「i.care」

私たち i.care は、神奈川県立中原養護学校の卒業生と在校生の親が中心となって発足した、任意団体です。他に、特別支援学校の教員、看護師がメンバーにいます。川崎市・南部に、医療ケアの必要な重い障害の人たちが、高等部卒業後に安心して通うことのできる居場所として、地域活動支援センターの設立を目指しています（法人化を予定）。

川崎市は、特別支援学校高等部卒業後に「在宅ゼロ」を謳い、その対策を推進するために計画的・継続的な基盤整備を行うとしています。しかし、既存の福祉施設等には、定員を超えたサービス利用者が障害種を超えて通所しており、手のかかる重い障害のある人たちに十分な支援・介護がなされているとは言い難い状況です。さらに、医療ケアの必要な人たちにとっては、看護師の絶対数の不足や知識・情報の不足、医療ケアができる職員の不足等により、通所したくてもかなわない現実があります。また、医療ケアの必要な重い障害のある人たちとその家族は少数派であり、上記のような現状の中で、特別支援学校在学中から、地域で暮らすことにいつも不安を抱えています。障害が重いだけでなく、医療ケアがあることで、子どもを家族の手から離すことが小さいときから難しく、人に委ねることができません。また、親は、

常に体調の変化に気を配り、昼夜を問わず 24 時間 365 日、必要なケアをし続けなければなりません。



i.care は、医療的ケアの必要な重い障害のある人たちとその家族が、家族のそれぞれの暮らしの在り方を守って、安心・安全に地域で生活できるようにすることを目指します。具体的活動として、子どもたちの居場所づくり、親たちの勉強会や茶話会を計画しています。

「i.care」の名称の由来は、愛（LOVE）のあるケアで「あい.けあ」、医療ケアの短縮語「医ケア（いけあ）」＝「i.care」。care（ケア）には、医療ケアだけでなく、日常の介護や支援的関わりも含まれると考えます。

【i.care 連絡先】

☎ 070-5597-3075

e-mail miona-chan@willcom.com

代表 高柳 聡子・山崎 奈美・黒川 幸子

URL <http://team0icare.wixsite.com/icare>

児童発達支援・放課後等デイサービス KIDS ゆらりん

医療技術の発達により、病気や障害があっても多くの子どもの命が助かるようになってきました。中には、医療ケアをしながら退院し地域での生活をされているお子さんやご家族もいらっしゃいます。こういった医療的ケア児は病院から自宅のある地域に退院しますが、退院してからの地域で支える仕組みは十分ではなく、ご家族が孤軍奮闘しているのが現状です。また、家から出れない状況は子どもの発達にも大きく影響します。医療的ケア児の多くは、保育園や幼稚園の受け入れが難しく、集団生活の経験をすることが難しい現状です。私たち「KIDS ゆらりん」では障害を持ったお子さんの中でも医療的ケアが必要なお子さんやご家族を支援していきたいと考えています。

《理念》

□医療ケアのあるお子さんや重症心身障害児のお子さんの発達を支援します。

□お子さんの日常ケアだけでなくその子に合わせた発達支援を行います。

□ご家族の体と心の休息ができるように努めます。

○対象となるお子さん

医療ケアが必要なお子さん・医療ケアが必要な重症心身障害児

○定員 1 日 8 名

○営業日 月曜から金曜

住所：川崎市岡上 366 - 2

電話 299-6240